

市長から 市民のみなさんへ 39



山陽小野田市長 白井 博文

市民運動の流れを変える可能性 ～まちづくり市民会議「セメント社宅検討」部会～

11月30日、まちづくり市民会議「太平洋セメント住吉社宅検討」部会から提言書をいただきました。活用に向けて保存会を新たに設立し、改修費や維持管理費のための資金を集め、目途がついた時点で市の施設として位置づけてはどうかという内容です。

財政的援助を市として何も行わないという前提のもとに設置した今回の市民会議でしたが、なかなか一定の方向にまとまらない議論の場に私も同席しながら「重い荷物を背負わせてしまったのかな」と感じたこともありました。しかし、市とは離れたところで保存会が新たに立ち上がり、今回参加した委員のほとんどの方が引き続き関わっていただけということで、私の不安は良い意味で裏切られ、嬉しく思っているところです。自分たちの手で一からまちづくりに積極的に関わっていこうという模索の道を選び、新たな挑戦を決意したみなさんが頼もしく見えます。保存会の活動がこれからの本市での市民運動の流れを変えるモデルケースとなるのではないかという予感すら抱いています。

折しも市の施策、条例などを計画する際に、事前に市民のみなさんから意見をおうかがいする「市民意見公募（パブリックコメント）制度」の第1号の記事が3ページに掲載されていますが、そうした市役所内部での動きと呼応する形で、偶然とはいえ、今回、市民運動が今までとは違った形で大きく前進しました。市民の内面から湧き上がってくるエネルギーを行政の側が受け止め、活用しながらお互いの歩みをすすめてい

くことこそが真の意味での「協働のまちづくり」のはじまりになると常々、私は考えていましたので、そういった意味では今回の市民会議の果たした役割は提言書の内容以上に有意義なものとして、山陽小野田市の将来に大きな影響を与える可能性を秘めていると言えるのではないのでしょうか。

2006年は“耐”の一年でした

季節は巡り、時間に追われているうちに早いもので今年もあと2週間足らずとなりました。2ページに今年の10大ニュースを掲載していますが、厳しい財政事情を反映して、結果的にソフト事業中心のものばかりとなったことは致し方ないかもしれません。

私は今年一年、あちらこちらから色々な材料をかき集め、完成型には程遠くとも、山陽小野田の市の“実体”のようなものをつくりあげていくことに精力を傾けてきたつもりです。山陽オート事業、病院事業、生活改善・学力向上プロジェクトなど劇的な方針転換をおこなった事業もありましたが、それらは言ってみれば体力の弱っている市の“身体回復”のための手段にすぎませんでした。それよりも私が重きを置いたのは、身体よりも“心”、つまり一体感の醸成であり、10大ニュースのベスト3はそのような基準で選ばせていただきました。

今年を象徴する一字としては、一にも二にも財政問題が重くのしかかったということで、“耐”の一年だったと言えるでしょう。それでは、耐えた後の来年は、バラ色かといえば、更につらい、“忍”の一年になることが予想されているところです。しかし、来年以降の2～3年が将来にわたる山陽小野田市の運命を決める大切な時期であることには違いありません。一層、厳しくなる財政問題に対処しながらも一体感の醸成、ソフト事業に軸足を置き、がんばっていこうと思っております。

本来、行わなければならない市としての基盤整備が合併以来、ほとんど進んでいないことについては、「申し訳ございません」とひたすら頭を下げるしかありませんが、“耐”え“忍”び続けた後に訪れるであろう“曙（あけぼの）”の時代を強く信じて、来年も全身全霊をこめてまちづくりにまい進する決意です。市政へのご理解、ご協力を引き続きお願いします。

みなさんにとって、素晴らしい2007年でありますように祈念します。良いお年をお迎えください。

対話の日

※いずれの会場も19:00から



12月27日(水) 横土手自治会館
1月11日(木) 中塚公会堂
1月23日(火) 本山町自治会館